



## 説教要旨「赦されて生きる喜び」

マルコによる福音書 2章 1～12節

屋根をはがして、穴をあけ、そこから床に寝かせた病人を吊りおろす。どう考えてもこの行為は、非常識であると言わざるをえません。もう少し別の方法はなかったのか。もしくはイエス様の家から出てくるのを待つことはできなかったのかと思ってしまう。しかしイエス様は、この非常識きわまりない男たちの姿に“信仰”を見出しました。

彼らは病を癒してもらいたい一心で、イエス様のところにやってきて、屋根をはがし穴を開けました。ところが、イエス様の口から語られたのは、病を癒すための言葉ではなく、罪の赦しの宣言でした。中風の人にとって体が動かないというのは、目に見える問題です。それに比べて罪というのは、目に見えないものです。この罪の問題は、病の問題ほど明確ではなため、罪の問題の解決を後回しにされてしまうのです。

イエス様が宣べ伝えた神の福音、すなわち「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」(マルコ 1:15)。とのみ言葉を、真剣に受け止めたなら、もはやじっとしてなどいられないのです。なぜなら、神の国が近づいているからです。もうすぐそこまで迫ってきているのです。そこでは、病の癒しよりも罪の赦しこそが切迫した問題なのです。だからこそ、イエス様は彼らの非常識な行動に“信仰”を見たのであり、だからこそイエス様は病の癒やしよりも罪の赦しをこそ優先したのです。

わたしたちは神の国の到来を切迫した問題として受け止めているでしょうか。目先の問題の解決ばかりに思いとらわれて、自分自身が抱えている罪の赦しを後回しにしてはいないでしょうか。「苦しい病を癒してほしい」「努力しても実現できない願望を叶えてほしい」そのように、自分の力が及ばない問題を解決しようと神を求めるのがわたしたちの姿です。しかし、イエス様は、わたしたちが願う問題の解決を後回しにして、罪の赦しを宣言するのです。「子よ、あなたの罪は赦される」。このみ言葉によって、わたしたちは罪を赦され、神と共に歩んでいくに生きる者とされるのです。

(2022・2・20 説教者：稲垣真実)